

太融寺だより

令和2年号

発行所 高野山真言宗 佳木山 太融寺
 〒530-0051
 大阪府北区太融寺町三十七
 ☎06-6163-1154(八〇)
 発行人 麻生 祥光
 発行日 令和二年一月一日

「和顔愛語」



住職

麻生 祥光

マンションに住んでおられる檀家さんのお宅へ法事で伺った時のことです。エレベータの前まで来ると、ゆっくりと閉まりかけた扉が再び開きました。誰かが私の姿を見て、開けてくれたのでしょうか。急いで乗ると、両手に買い物袋をさげた三、四〇代の女性が、笑顔で「何階ですか？」と尋ねてくれました。思わず、「八階です」と。彼女は、両手がふさがっていても器用に八階のボタンを押し、エレベータは進みます。先に五階で降りる彼女は、微笑みながら「お先に」と一言残して去っていききました。よくある日常の一コマかもしれません。そこに居た私は、彼女の心遣いに何とも言えない心地良さを感じました。そして、八階に着き、お檀家さんのお部屋

のインターホンを鳴らして扉を開けると、玄関の下駄箱の上に色紙掛けがありました。そこには「和顔愛語」と書かれているのではないですか。和顔愛語とは、和やかな顔と思いやりのある温かいことばで人と接することです。まさに、先ほど出会ったエレベータの女性のことだと、思わず、笑みがこぼれました。玄関から仏壇のお部屋へ進む時の「こんにちは、お邪魔します」と言う私の声は、いつもよりも高く、顔に微笑みを浮かべていたことは言うまでもありません。

私たちは、一人で生きているわけではありません。家族、友達はもとより、ご近所さんや顔見知りの方、全く存じ上げてない方など、本当にたくさんの人々とかかわりをもって、お陰を頂き暮らしています。そんな多くの人たちと接する時、自分の思いは、正しく相手に伝わっているでしょうか。会話を通してのコミュニケーションでは、話の内容、声の調子、見た目や態度が合わさり、相手に気持ちが伝わるというわけています。エレベータの彼女は、温かいことばと笑顔、そして親切な態

度で、思いやりの気持ちを私に表してくれたのです。

「菩薩の用心は、皆、慈悲を以って本とし、利他を以って先とす」

『秘蔵宝鑑』

仏さまの精神は、相手を思う慈悲の心が根本となり、他の人を救済し、幸せにすることが第一である、というお大師さまのお言葉です。何も難しいことではありません。和やかな顔で温かいことばをかけるだけでも、相手は幸せな気持ちになっていくのです。日常をふり返ると、私たちは、自分が楽になるように、自分が得するようにと、自分中心に物事を考えてしまいます。しかし、まわりの人々が幸せであってこそ、はじめて自身も幸せになれるのです。まずは身近なところから、仏さまのように相手を思いやり幸せにするよう和顔愛語の精神を心がけてみようではありませんか。



令和二年、開創されて

一二〇〇年を迎えます

太融寺は寺伝によりますと、弘仁十二年（八二二）弘法大師が当時この地にあった森の中から異香の薫りを放つ霊木を採られ、地藏菩薩と毘沙門天とを刻んで草庵を結ばれたことがその始まりとされています。このこと

に大いに興趣を感じられた嵯峨天皇が、その翌年この地に行幸なされ、ご自身の念持仏を下賜されました。その念持仏こそ千手観世音菩薩であり、本堂のご本尊として信仰されています。

承和十年（八四三）、嵯峨天皇の皇子である河原左大臣源融公がこの地を訪れ、八町四面を画して七堂伽藍が建立されました。そして霊木によって創建された故事により山号を佳木山とし、源融公の諱をとって太融寺と名づけられました。

時を経て、慶長二十年（一六一五）五月、大坂城落城のとき兵火で全焼しましたが、寺地は削られながらも元禄年間に本堂や南大門など二十五棟が復興し、「北野の太融寺」と人々に親しまれ、浪華の名刹として大いに栄

えました。当時を偲ぶ境内地の名称は今も、太融寺町・堂山町・神山町などとして残っています。

しかし、残念なことに昭和二十年（一九四五）六月の大阪大空襲により、堂塔伽藍一切が灰燼に帰しました。幸いにもご本尊千手観世音菩薩は早くから高野山に預けられていたため、無事にそのお姿を今に留めています。また梵鐘は戦時の物資供出となることでしたが、美術品として優れたものであるとして免れ、今も厳かに音色を響かせています。戦

後は再建に着手し、本堂・大師堂・一願堂・護摩堂・宝塔・客殿・本坊・庫裡・鐘楼・東西南北の門・御供所など二十余棟が復興いたしました。

時代は平成となり、十八年（二〇〇六）十月、これまでの本坊を、寺の行事はもとより多目的に活用できるように建て替え、平成二十九年（二〇一七）十二月には、戦災で焼失した辯天堂を小祠として再建しました。

新天皇陛下が即位なされ、平成から令和の

時代を迎えました。本年令和二年（二〇二〇）

には太融寺が創建されて千二百年の記念の年を迎えます。この吉祥の年にむけて、昨年より太融寺開創千二百年記念事業を立ち上げました。記念事業としては、永代供養のお位牌をお祀りする八角堂の建立（令和元年完成）、東門再建及び東境内整備（令和二年十月完成予定）、千二百年の歩みをまとめた太融寺史の出版（令和二年より御供所にて販売）などを計画しています。また、令和二年十一月一日〜七日まで、開創千二百年記念法会を厳修いたします。法会期間は、本尊千手観世音菩薩をご開帳し、慶讃法会を修するのみならず、稚児行列や、期間中毎日、所願成就の護摩祈禱をいたします。

今後とも、喧騒とした街中に在りながらも、ひとたび境内に入れば心の安らぐお寺として皆様親しまれる寺院となるべく、濟世利人の聖地として歩み続けます。

開創法会期間

自 令和二年十一月一日 開白
至 同 七日 結願

ご祈祷のご案内

毎月八日・十八日・二十八日の午後二時・

四時（二十八日は午前十時も）、護摩堂にて無事息災・身体健全・商売繁盛・事業繁栄・良縁成就・入試合格など、所願成就の護摩祈祷をいたします。護摩木にお願い事（一願三百円）をご記入のうえ、ご参拝ください。祈祷の日以外でも護摩木の受付はいたします。

願主のためだけにお勤めする特別一座護摩、太鼓と読経による一座祈願、車の前に祭壇を構えての交通安全祈願、その他出張によるご祈願は、事前のお申込みが必要です。日時、所要時間、祈祷料などの詳しくは寺務所までご相談下さい。



ご廻向のご案内 （法事・祥月命日・永代供養）

ご法事・祥月命日の廻向で土・日・祝日をご希望される方は、予約が集中しますので、ご希望の日程が決まりましたら出来るだけ早くご相談下さい。お位牌をご持参いただきましたら、太融寺のお堂でも執り行うことが出来ます。（本坊にて食事可）

また、毎月二十一日の午前十時～正午、大師堂にて経木塔婆による先祖供養（一霊五百円）をいたしております。

ご先祖を祀る継承者がいなくてお困りの方は、お位牌による永代供養を受け付けております。永代供養お位牌は、八角堂にてお祀りいたします。

またお墓の後継者がいなくてお困りの方は、合祀によります太融寺永代供養塔がございませす。詳しくはご相談下さい。



観音経読誦会

毎月十八日の午後一時より、本堂ご本尊千手観世音菩薩の御前にて観音経をお唱えいたします。貸し出し用の経本も準備いたしております。読経後に本堂内陣を拝観できます。特に毎年一月十八日の初観音では、平安時代から伝わる秘伝ご本尊のすぐ近くで手を合わせる事ができます。

献灯のおすすめ

日頃より仏さま神さまの御恩徳に感謝し、明るい心で正しい道を歩むことができる智慧を授かりますよう、真心の一燈を献じましょう。提灯・灯籠には施主のお名前を明記いたします。

- 一願不動 一年間 一万三千円
- 白竜大神 一年間 七千円
- 北門参道 一年間 三万円



行事紹介

花まつり

四月八日はお釈迦様のお誕生日です。仏教ではこの日を、花まつり・降誕会・灌仏会などと称します。今から二千五百年の昔、お釈迦様がルンビニー（現在のネパール南部）の花園でご誕生されたとき、九体の竜神が現れ、甘露の雨を降らして産湯としたといわれています。この故事により当山では、たくさんのお花で飾った花御堂に誕生仏をお祀りし、甘茶をかけてお祝いいたします。

日時 四月八日

場所 大師堂前

※甘茶お接待は午前十時から

柴燈大護摩供

境内（本堂前）に護摩壇を組み、一願不動尊の護摩祈禱をします。正午過ぎより山伏の行列が太融寺周辺をお練りし、その後境内に入り本堂と一願堂とを礼拝し、護摩壇の前に至ります。行者問答によって山伏の心得と修験道の意義が明らかにされ、宝斧・宝弓・宝剣などの儀によって道場が清められ、火が入られます。護摩の火は不動尊の智慧の火です。皆さまのお願い事が込められた護摩木をその火中に捧げ、無病息災・商売繁盛・身体健全など諸願成就を祈願いたします。

日時 五月二十八日 午後一時

場所 境内

※大木札（一万円）・御幣（二千元）をご希望の方は前日までに
※法要後に豆御幣授与、グリーンティーお接待あり



寺子屋ほっと

「法話って聞けますか?」「仏教についてわかり易く知りたいです」など、さまざまなお声を頂きます。当寺では仏教・文化・くらしの講座「寺子屋ほっと」（月一回土曜日）を開講しています。ネットで予約をしていただければ、檀信徒に限らず、どなたでも、どの月からでも参加することができます。（初回登録料二千元、一講座千円〜）

令和二年度は「般若心経を学ぼう」「十善の教え」「袈裟って何だろう」などの講座をいたします。詳しい講座内容や申込方法については、「寺子屋ほっと」の案内パンフレットかホームページ（<http://www.taiyuji.com/hot/>）をご覧ください。皆さまのお越しをお待ちしています。

